

教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日 令和 3年 4月 30日

グループ名	都立・区立特別支援学校等 教育推進研究会	フリガナ 代表者氏名	ワダ シンヤ 和田 慎也
学校名 (代表者)	都立中野特別支援学校 (校長 和田 慎也)	電話番号	03-3384-7741
研究テーマ	新宿区・中野区・杉並区を通学区域とする特別支援学校の教育の推進 及び区域内特別支援教育の促進		
研究期間	令和 2年 5月 1日 から 令和 3年 3月 31日 まで		
研究結果 の概要 ※詳細は別 紙により 報告	<p>○第1回連絡会：5月開催予定だったが、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言ため、書面開催で実施</p> <p>○8月5日（水）新宿養護学校、済美養護学校、永福学園の校長・副校長が中野特別支援学校に来校、エリア内の特別支援教育の推進について情報交換を行った。</p> <p>○第2回連絡会：9月23日（水）午後3:30～午後5:00実施</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 1月8日 エリア・コーディネーター連絡会全体会「地域支援講演会」について ② 各校からの報告（今年度の学校体制、地域支援状況、副籍実施状況 など） ③ 情報共有（福祉課、特定事業所、放課後等デイサービスとの連携の仕方についてなど） ④ 全体会→緊急事態宣言のため、中止 <p>○第3回連絡会：令和3年3月5日（金）午後3:30～午後5:00実施</p> <ol style="list-style-type: none"> ①各校からの報告（今年度の学校体制、地域支援状況、副籍実施状況 など） ②情報共有（福祉課、特定事業所、放課後等デイサービスとの連携の仕方についてなど） <p>【総括】</p> <p>新型コロナウイルスのため例年と異なる開催だった。また副籍交流事業や放課後等デイサービス事業所との連携の仕方など、情報交換することで各校の取り組みの参考とした。</p> <p>このほか、校種を超えての転校を希望しているケースについては、見学の前に様子を聞くことができた。</p>		
その他 特記事項			

令和2年度 第3回 中野・杉並・新宿エリアコーディネーター連絡会 情報交換資料

都立中野特別支援学校

● 副籍状況

1) 副籍地域指定校と児童・生徒数

中野区 小学校 16校(43名)、中学校 4校(9名) 計 52名
新宿区 小学校 13校(18名)、中学校 7校(11名) 計 29名
渋谷区 小学校 3校(3名)、中学校 1校(1名)
小中一貫校 1校(小学部2名、中学部4名) 計 10名
世田谷区 中学校 1校(1名) 計 1名

合計 92名(46校)

2) 副籍交流活動実施状況

今年度は間接交流のみとなった。副籍報告書回収中。

地域指定校に自己紹介カードを保護者が作成し送付した。

新宿区内の小学校の作品展に展示してもらった。

● エリア内小中学校高等学校支援状況(予定を含む)

1) 中野区、新宿区、地域支援 9月より開始。

新宿区: 小学校 2校、保育園 1校、子ども園 1校(複数回訪問)

新宿区子ども家庭若者サポートネットワーク発達支援部会(書面開催)

新宿区特別支援教育推進委員会

中野区: 中学校 2校、小学校 1校、幼稚園 1校(複数回訪問)

中野区要保護児童対策地域協議会(中止→書面報告)

中野区障害者自立支援協議会

中野区障害者自立支援協議会障害者差別解消部会

中野区障害者自立支援協議会就労支援部会(進路指導部)

中野区特別支援教育コーディネーター連絡会

初任者研修会会場提供

高等学校: 中野工業高校(2回) → 就業に向けてという視点での依頼

農芸高校(2回)

荻窪高校(1回) → 就業に向けてという視点での依頼+来年度より始まる通級について

2) 新宿区 特別支援学級専門性向上事業(新宿区花園小学校)

● 福祉課、特定事業所、放課後等デイサービスとの連携の仕方

1) 放課後等デイサービスとの連携強化について

例年は学校公開時に放課後等デイサービスとの連絡会を行っていたが、今年度は学校公開が中止となっているため、12月に実施をした。

① 放課後等デイサービスとの連絡会内容

・災害時の対応について(問題提起): 学校から放課後等デイに引き渡した後の対応についての取り決めについて

- ・コロナ対策における対応について（感染症者がでた場合の）：陽性者がでた場合の対応について
- ・下校時の密対策について：3学部が一堂に玄関前に集まることへの対応
下校時においてスクールバス下校生徒と放課後等利用生徒が一堂に玄関前に集まることへの対応

② 連絡強化のために行ってきた事項

- 一斉同時に情報を伝達することが必要となることを想定して⇒ツールとしてメールを使う

↓

現在無料メールサービスの活用準備中

2) 福祉課 区ごとに連絡先は異なる。

福祉サービスについて中野区はすぐやか、他は福祉課、特定事業所がいる児童生徒についてはそちらに連絡するようにしている。特定事業所の利用は杉並区以外はあまり進んでいない状況。区ごとの温度差を感じる。

● その他

1) 医療的ケアについて：令和3年度 新たな対象生徒はいない。

第3回中野・杉並・新宿エリア 新宿区立新宿養護学校資料

令和3年3月

1 副籍実施

【傾向】

- ・交流希望の児童・生徒の割合が高い。
- ・交流希望の児童・生徒 85%
- ・交流希望の児童・生徒の内直接交流 90%

【学区外への希望】

- ・兄弟の在籍状況を考慮した希望があり、教育委員会と連携して、指定校を決定した。

【特別支援学級への交流希望】

- ・学区外の特別支援学級との交流希望があり、教育委員会と連携して、指定校を決定した。

【今年度の対応】

- ・年度当初直接交流を実施する予定だった児童・生徒は、6月の時点で全員、間接交流に変更した。区教員委員会より保護者及び地域指定校に周知してもらった。
- ・間接交流のみではあったが、可能な範囲でつながりを持った。

【交流内容】

- ・オンライン交流・・2校2件
- ・作品展への展示・・3校4件
- ・手紙での交流・・・1校3件

2 地域支援の状況

- ・1月に「放課後等デイサービス等連絡会」を初めて実施。障害者福祉課と3者が集まり顔を合わせることができた。
- ・次々年度に入学する児童の保育園等を中心に巡回していきたい。

3 本校の課題

- ・学校生活支援シートの作成・活用の方法について
より良く活用できるような作成や活用方法について、他校と情報共有したい。
- ・支援機関との連携について
訪問看護ステーション
居宅介護支援 等

学部	内容		交流	
	直接	間接	直接	間接
小学部	21/23名		20名	1名
	9/12名	7名	2名	
中学部	2/12名		0名	2名
	2名			

第3回 中野・杉並・新宿エリア コーディネーター連絡会資料

都立永福学園

教育支援・地域支援部

1 地域支援の状況について

【中野区】

- ・就学支援委員会（学校見学お知らせチラシを作成し、区から配布を依頼）

【杉並区】

- ・就学説明会 なし（学校見学お知らせチラシを作成し、区から配布を依頼）
- ・区立幼稚園入園予定児童に関する支援

【新宿区】

- ・なし

2 トピックス

- 今年度は、部門公開（学校公開）の実施ができなかった。
- ・年少、年中幼児保護者の見学が例年よりも多くあった。
- ・放課後等デイサービス・相談支援事業所との連絡会も実施せず。（部門公開日と抱き合わせで設定していたため）
- 校内支援会議
- ・医療的ケアに関係する案件が多い。（注入と喫食の併用、保護者の付き添いに関すること等）
- コロナ感染不安を理由とした欠席者
ほぼ通年4名、時期的に数名
- 副籍交流 実施人数（在籍児童・生徒数 小学部：54名、中学部：20名）

内容 学部	直接交流	間接交流	籍のみ	籍を置かない
小学部	9名（20名）	28名（20名）	12名（9名）	5名
中学部	0名（2名）	12名（10名）	5名	3名

※カッコ内は年度当初希望人数

- ・コロナの影響で、保護者より「直接から間接」「間接から籍のみ」など交流内容の変更の申し出が複数あった。
- ・中学部においては、地域指定校から直接交流を控えてほしいと連絡を受け、直接交流ができなかったケースがあった。
- 次年度からの新規事業
- ・定例支援会議の実施

対象：小3、中1、転入生（高等部は福祉事務所訪問）

夏季休業中、本校にて実施予定

* 今年度→来年度

- ・ 転出 2名 (中野特支 2名) 転入 3名 (済美 1名、都立肢体特支 2名)
- ・ 新入生 (中学部は内部進学生のみ、高等部は内部進学生も含む)

	居住区	令和3年度	
		男	女
小学部	杉並	1	3
	中野	4	2
	計	10	
高等部	杉並	2	1
	中野	0	1
	新宿	2	2
	計	8	

令和2年度 第3回 中野・杉並・新宿エリア CO連絡会資料

令和3年3月5日

杉並区立済美養護学校

コーディネーター 溝口・玉野・渡辺

1. 活動報告

①副籍

★本校副籍実施状況 ⇒ 児童・生徒数 145名中 69名実施 48% (実施率)

(内訳) 直接交流 38名 (小学部34名、中学部4名) 55%

間接交流 31名 (小学部22名、中学部9名) 45%

(昨年度・実施率 60% (児童・生徒数 131名中、79名実施)

今年度は、休校からの新年度スタートということに伴い、1学期中は全員が間接交流でのスタートとなった。その後も、地域指定校や保護者により温度差があり、直接交流を積極的に実施するのが難しい状況であった。そのこともあってか、次年度以降は直接交流を希望しない児童・生徒が多くなりそう。コロナ禍における副籍交流の実施について、リモート交流など多様な交流の仕方が保護者から求められてもいる。

②相談支援

- ・今年度は、相談支援連絡会や自立支援会議など、区内の外部機関とのつながりをもてるような会議がすべて中止となった。次年度の開催も危ぶまれている中、各機関との連携の在り方について、新たな方策を打ち出さなければならない。
- ・校内の支援会議は、福祉サービスの充実に向けた機関連携・子家センとの連携ケース・外国籍の家庭の支援など、幅広くあった。休校期間中に保護者が養育困難となり、施設入所となるケースもあり、家庭支援の重要性を感じた。
- ・相談支援事業所のモニタリングへの協力要請を4事業所(6回)から受けた。今年度に関しては、電話で対応したケースもあった。

③就学・転学支援

- ・就学・転学検討者の随時見学や体験、相談、今年度も増。杉並区の教育支援委員会にメンバーとして参加。(年間約20回) 新就学児童数の増加傾向への対処。スクールバス調整。新入学に当たっての相談支援の関与。
- ・支援学級巡回相談の実施(2回)。区内の支援学級に在籍する、就学時に支援学校判断の出ていた児童の観察・指導助言等。
- ・通常学級巡回相談の実施(2件・5回)。区内の通常学級に在籍する、就学・入学時に支援学校判断の出ていた児童の観察・指導助言等。
- ・東京都専門性向上事業の実施(7回)。区内中学校特別支援学級(大宮中学校)にて「生徒の実態把握とアセスメントの活用」をテーマに、年間を通して観察や助言を行った。

④夏季研修会（区内教職員対象）

今年度は中止。

⑤情報提供、関係機関との連携

- ・保護者向け特別支援学習会、今年度は中止。
- ・通年：区の教育支援委員会（入学検討部会）出席。事前観察と個別の体験の受け入れ。
(年間約20件(臨時含む))
- ・杉並区特別支援教育研究協議会（支援学級担任会）理事、杉並区教育研究会特別支援教育部副部長。区内小中学校教職員との連携を図る。

2. 次年度の予定、課題

①医ケアの整備

昨年度スタートの1名に加え、在校生で希望した1名が加わり、次年度は2名になる見込み。

②副籍の拡充と区のコーディネーター研修での啓発。

③杉並区の「就学の流れ説明会」への永福学園との共同参加。

④新就学時のバス・学童・移動支援・放デイなどの総合的なコーディネートの必要なケースへの対応。

⑤こども発達センター・区立保育園(子ども園)・区内小・中学校特別支援学級との連携。(適正な就学・進学指導につなげる。)